

刊夕日八十二月九



刊日
発行所 常磐新聞社
印刷所 常磐新聞社

小學兒童の清書と感想文

簡易保険記念日
事務として
平郵局長 佐藤守節

因みに募集の要領等は次の通り

一、簡易保険清書募集の要領

1、募集の趣旨 保険思想の普及と制度の周知を圖り兼ねて相互扶助の觀念と獨立自營の精神の涵養に資せんが爲め學童より簡易保険及郵便年金に關する清書を募集せんとするにあり

2、募集の要領

- (一) 書方文字 ホケン 同
二學年かんいほけん 同
三學年笑ふ家に保険あり
同四學年保険は無言の慈愛なり
同五學年年金を取るたび思ふ親の恩 高
等一學年護れよ祖國備へよ保険
(二) 用紙 學校にて一定しある向は該用紙とし其の他は普通の半紙とす
(三) 應募 應募資格者は尋常一學年乃至五學年及高等科一學年の生徒とし全生徒に於て清書し之を各學校に於て學年

別男女毎に審査し各學年男女に付代表的の優秀清書一枚を選定の上裏面に審査票添附關係郵便局を通じて仙臺逓信局に推薦せらるゝこと

(四) 締切 昭和十年九月二十八日

二、簡易保険感想文募集の要領

1、募集の趣旨 保険思想の普及と制度の周知を圖り兼ねて相互扶助の觀念を獨立自營の精神の涵養に資せんが爲め學童より簡易保険に關する感想文を募集せんとするにあり

- 【朝】味噌汁・豆腐
小付 花らつきやう
【晝】チキンライス
福神漬
【晚】味噌合へ 里芋 若芽 鶏肉くわやき

2、募集の要領
(一) 題名 隨意 但簡易保険に關する敘説
感想文又は實話等を記述せるもの
(二) 用紙及字數 隨意
(三) 應募 應募資格者は尋常六學年及高等科二、三年生徒とし應募原稿は各學校に於て學年

別に審査し各學年に付代表的の優秀作一篇を選定の上裏面に應募票添附最寄郵便局を通じて簡易保険局に推薦せらるゝこと
(四) 締切 昭和十年十月二十日完

常磐文藝

秋は、
青桐 晴夫
秋は、
やさしく、静かです
變はしまつてゐて
私は子供のときから
秋が大好きだ
氣品の高い秋
元氣な秋、健康の秋
誰も戸外に出る
そうして働け
真理に向つて進め
ぐづぐづしてゐると秋は
ゆく
鍛へよ、磨けよ
無限に高い青空に向つて
大手をさし伸べよ
そうすれば諸々の神は
總ての人の上に宿らむ
私は秋を讀へる
お、秋よ
私はどんなに優れた美をおまへから見出したか
秋から學ぶことが私は多
神祕な秋よ

謹啓父末松儀永々病氣の處療養相叶ず死去致し候追て本日午後八時茶毘に付し明後二十九日午後一時自宅出棺大寶寺に於て佛式に依り告別式相營み申す可く生前尋知各位に乍略儀此段謹告仕り候
昭和十年九月廿七日
男 織田万治郎
織田時松

吸入用酸素純度99%
モノサシ
體溫計
寒暖計

開内藥局
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス
電話四〇番

木村外科醫院
花柳病科 專門
電話三〇九番
平町六丁目橋

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平町田町(電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

中野齒科醫院
院長 日本齒科 中野惠次
日本齒科 西川誠
醫學士 西川誠
平町田町(松月堂向と)
電話五〇九番

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお奨め致します
平町田町六九
電話一二七番

子宮病根切藥
宮溫湯
暑い、と薄着して居る間に腰が
左様な方は子宮温め藥宮温湯をお奨め致します、冷え性の
方、子宮のほしい方、子宮の悪い方、月經時に痛みを
覚える人、なが血、白血でお困りの方は是非御試して下さい
平町古鍛冶町一〇縣社の下
蝶印藥 一手販賣 阿康藥局
電話 四四番
振替口座東京三〇六五番

吉田眼科病院
平町屋町電話六八番
醫學士 吉田久雄

歐洲戰亂當時の

水準に益々接近

依然として買氣旺盛

残念がらせる收購減

廿五日以來物價い高騰續きの四倉購市場は昨廿七日天候回復して取引高は一躍四百五貫に増し相場は最高六圓四十六錢、最低五圓一錢、六圓二角三錢買氣旺盛で今後共高騰持續を豫想されるが原料の晩秋蠶が依然不良を續けた天候關係で桑葉の發育不完全から蠶兒の硬化病、軟化病、膿病、空頭病等榮養不良に

基く病害發生し更に冷濕に因る飼育上に於ける技術的適應の不全等が加はり悲感されてゐた處今回の洪水被害により加速度に收購減に影響あるべく歐洲戰亂當時の七十圓臺の水準に接近のビツチを上げ、繭高に狂喜する反面收購減は郡内養蠶家を残念がらせてゐる

水害漁港に

應急の對策

縣から實情調査

廿四、五兩日十數年來の超降雨量を示して郡下を襲つた豪雨の被害は莫大であり殊に海岸地方は防波堤の潰壞慘たるものでありその復舊が一日も忽がせに出來ないので被害海岸地方では廿九日午前十時から縣土木監督所長及事務主任等を招いて被害實情を調査應急對策を協議することになつた而して被害高は江名護岸決潰による三千圓、縣、船

信組協會提案

並に福島、若松、郡山、白河、須賀川の縣下市街地信用組合協會では来る十月八日東京市赤坂區々會堂に開催される全國市街地信用組合協議に左記三項を提案す

ることになつた

一、中小商工業金融改善に關する要望

二、商業組合工業組合を産業組合に加入し得るよ

う法の改正要望

三、市街地信用組合の指導機關を整へ發展せしむべき方策如何

第三、第四

兩校委員會

平町は本廿八日午前十時から町會議事堂に第三小學校臨時委員會を開き過般土地收容法に編入された第三校庭の敷地買収に就いて協議し佐藤、馬目(武)松崎、鈴木の各委員は不承諾地主と最後の交渉に當つたが更に同日午後一時からは第四小學校敷地の委員會を開き買収敷地一萬五千坪の位置其他を協議した

教員講習會

本郡より二氏受講、本年度第二回本科正教員講習會は來月一日より卅一日まで長期に亘り福島男子師範學校で開催されるが本郡より左の二小學校長が受講する

跳梁の水魔災害

復舊工事縣と打合

小林平土木所長明日出縣

小林平土木監督所長は明廿九日出縣し今回石城海岸の災害復舊に就いて根本的對策を打合はせる事になつた

續で惜敗した
△一等郡山△二等若松△三等庭坂△四等平

水道委員協議

平町は来る卅日午前十時から町會議事堂に水道委員會を開いて不良鐵管の處分共同檢新設其他に就いて協議す

第三區準備會

第三區小學校兒童體育大會は來月卅日舉行されるので今廿八日第一校で準備委員會を開いた

若人は叫ぶ

日頃修練した

雄辯道華やか

磐中の辯論大會

磐城中學校々友會の本年度辯論大會はいよいよ明後日卅日午前一時より各郷友會と聯合同校講堂に於いて盛大に開催されるがプログラムの左の如く、辯士各自が炎熱の夏休中に蓄積した内容を修練精進したもので傳統に輝く磐中健兒の熱血の雄辯は若き心身に高鳴る二千の聴衆を和して満場を昂奮の渦を卷かすのであらう

上達野高木憲平 田人青 田直信

力)二年久保正道(理想の大道に邁進せよ)二年

福田直右衛門(未定)二年

千葉登泰(未定)二年

一年柴田讓(眞の知己)二年

年渡邊浩二(世の中を面白く思へ)二年吉田利

治(未定)三年小松公平

(富士の驕)尼子橋會飯島

司康(吾が行く道)三年泉

己代治(時の流れ)漢流會

根本正男(文徳武魁)四年

高野邦一(學問論)漢流會

下山田一(國民品位の養成に努めよ)尼子橋會菊

地正(未定)四年吉田都榮

(休息は活動の影)双葉會

遠藤景久(理想を掲げし

て)四年漢流會 驚ろくべ

き破壊)尼子橋會松藤連

夫(蛙)尼子橋會新田目正

男(怒濤を破り屍を越へ

て)五年武田泰三(青年よ

須らく現代を悲觀せよ)

五年村山讓二(講評)小楡

山校長(開會の辭)委員武

田泰三

平職業協會報告

回人を求める方

△農夫 五十迄 月六圓

△船主 二十六才 月十圓

△保險外交員 尋卒 外面

△蒲鉾製造見習 十八才

尋卒 月五六圓外仕着

△料理人 二十八才 尋卒

△牛乳配達 十六才 高卒

△旅館女中 二十五才 高

卒

△女中 二十才

△職を求むる方

△料理人 二十八才 尋卒

△牛乳配達 十六才 高卒

△旅館女中 二十五才 高

卒

△女中 二十才

平町人學

△五丁目 當時東京市杉並

區馬橋三ノ三八一若松正

一氏二女敬子

回婚 姻

△胡麻澤四〇 伊藤昌二氏

(五二)栃木縣都賀郡栃木

町堀川ミネ(五〇)さん

△白銀町杉本實藏氏(五二)

茨城縣那珂郡湊町明神町

伊藤キヨ(五二)さん

店主が店員

を連れて行

か れる

正 ン 食 堂

正 シ ン 喫 茶

正 シ ン 酒 場

平、田町

レストサロン

電話三五二番

一册の代金

御希望通りな

五册の雑誌が

自由に讀める

川崎文庫

電話六三〇番

(申込次規規則書送呈)

上田病院

平町 南町

電話二二九番

二度も忍こんだ賊

下駄で主人を殴る

硝子戸を破つて逃走したが

追跡した勇敢な主人に捕る

意外な怪盗か

昨廿七日午前一時頃小名濱町宇古港吳服商志智清次郎方寢室へ一名の怪盗が忍入り隣室の金銀登録器を破壊して五十銭を持出して逃走したが再び同家に忍込み室内を物色中主人に誰何され矢庭に下駄で主人を殴打しガラス戸を破つて逃走したが志賀氏はひるまず賊を追

跡し通合はした酒小賣業加藤要さんと協力して組伏せ警部補派出所に突出した本署に押送取調べたが本籍住所を名乗らず大工職末永明(三)とのみで口を緘して語らぬので意外の怪盗ではないかと指紋を取つて各所に照會中である

初任給七十圓

満洲國警士採用

資格は高等卒業程度

平職業紹介所へ本廿八日滿州國から警士採用の斡旋方を依頼して来たが應募資格者は在郷軍人青訓出の者で年齢廿二才から廿七才迄高等卒業程度で初任給七十圓を支給されるが、希望者は本廿八、廿九の兩日福島聯隊區司令部で學術並に身體検査が行はれるから十月十五日迄に直接同聯隊區宛に志願書、履歷書其の他を送られ度い

水道断水

平町水道部は田町地内の消

圓い踊に

一村融和

鹿島の試み

鹿島村は小泉村長が中心となり先般一村融和をモットーとして村歌を作り更に之に鹿島踊と銘うけた盆踊りを振つけて青年學校生徒に實習せしめてゐるが「東しや江名濱、湯本は西

困つた三人男

他村で無銭飲食

坑夫カフエーでトラになる

磐城炭礦住吉坑合宿内坑夫笠岡仲吉(三)小野源助(三)齊藤林藏(三)の三名は本月十九日好間村大字中好間カフエー永山ヤン方で九圓三十銭の無銭飲食を働いた事發覺し目下平署で取調中である

農作物價奔騰で

お臺所經濟異變

殊更ひどいのは屋外労働者

連續異常天候と風水害にお臺所經濟に不安の危機襲來打ち續けた雨天は三二日珍らしく秋晴れを見せてはゐるが收穫減を豫想される米收は極端な高騰を來たして石城販利の廿一日俵米共販

廿九日
東日も南東の風
強天氣次第に良くなる

今晩の部
後六〇〇 子供の時間
傳説物語「玉の井戸」
白神久一他
後六二五 講演「笠置山上の錦旗」鷲尾順敬
後七三〇 獨唱 佐藤千夜子
後七五〇 漫才「飛んだ」
田正孝
後九〇〇 時事解説 太田正孝
後九三〇 時報 ニュー

ス 氣象通報 番組豫告
明日の部
前九三〇 童話と管絃樂
仙臺上杉山通小學兒童グ
ンリサランオーケスト
前一〇〇〇 日曜禮拜長
崎大浦天主堂中繼
前一〇四〇 本居翁遺蹟
「鈴の屋巡り」佐藤泰山
本居宣長翁を偲びて大西
源一伊勢松坂鈴の屋中繼
前一一〇〇 趣味講演
「書物と讀書」池田哲郎
前一二五〇 東京大學野

球リーグ早法慶帝戦神宮
球場中繼
後〇五〇 滿洲より音
樂ハルビン
後六〇〇 子供の時間
お話と劇奈色の大佛様奈
良童話劇協會
後七三〇 日曜特輯ニユ
ース演藝秋のニュース
長谷川時雨編輯
後八〇〇 管絃樂 新交
響樂團
後八三〇 講談「夕立勘
五郎」神田山
後九〇〇 義太夫 千本
櫻餅屋の段 竹本素女

もなく「殺人天候」何時晴れる」と遊び暮してゐたそれらの人々にはこの高騰は生命の不安を招致して蒼い瘦せた顔に一銭でもの收入競争に火花を散らして仕事を求めらるゝがこの晴朗な天候も何時迄續くかは一寸保證出來ず彼等の悩みは大きい農家とも期待した秋の收穫が超水續降雨に害さ

豊間の水害

急施村會開く

妻君二人

相談でドロン

豊間村長鈴木藤次郎氏外七名の區長は本廿八日小鉢平土木監督所長を訪ね今回の災害に依り管内最初の復舊工事に就いて陳情したが豊間港は去る廿六日の激浪の爲め防波堤三百間を破壊され漁船二隻が行方不明となり家屋二戸流失した慘状なので同村は昨廿七日急施村會を開いて豫算一萬五千圓の復舊工事に着手することになった

夏井村大字山崎農馬上千代松三男實(九)は精神異常の結果植田町大字岩間地内小名濱築港事務所倉庫内でアザリン自殺を企てたが發見され植田町高木醫院に收容手當中であるが生命は取り止める

平職判たより
△小名濱町字上明神町一〇無給木新内(三)假名同町字上町三十一野榮行商佐藤八郎(三)假名の兩名は去る七月七日同町料理業吉田屋二階で金五錢乃至十錢を賭け賭博罪に依り略式罰金各二十圓に處された
△平町新川町島肉商今井一(三)は昨年六月中賭博罪で罰金六十圓に處されたが今日まで一錢も納めせず廿八日より六十日間勞務場に服役させることとなつた



明治太平記

(編輯) 寺島雄史 (作) 寺島雄史 (監修) 寺島雄史

第二百三十七回

開化の鬼 (西)

「おれはおれには、野蠻人の相手はできぬ」
「黙れ、良順を、斬り刻んで、むごい目にあはしたのほどこのどいつだ」

「その良順の、おふくの敵だ。いゝ加減に観念しろ」
「いや、おれは、文明國人だ。英國の輝やかしき將校だ。ニッポンの、どろぼうの相手は、あくまでもできぬ。どけい」
半圓形の包圍をついて、パークスおとわの男女のあとを追はうとする。
「めんだうだ、やつちまへ……」
さらに、もういちど天竺は叫んだ。左右の子分は、白刃を振りかぶつた。
と、このとき、ウエルズの背後に迫つてゐた大志賀は

「待て！」
鋭く叫んで飛込んできたそして、ウエルズをかばふやうにして、白浪たちの前に立ちはだかつた。
「誰だ？」
天竺の、さえた聲だ

「この、毛唐を、おれがあづかつた」
大志賀の、濼い底力のある聲だ。
「なせだ？」
「何でもいゝ、おもへたらにこの毛唐を殺させては義理が立たぬ」



「だからウエルズを、おまへたちの手にまかせてはおれの助太刀商賣が上つたりだ」
「お、あのことが、らしやめんの助太刀か、ひよんなところで商賣氣を出したんだが、ほかのことなら、ずゐ分てめえにゆずつてもいゝが、このことだけはできぬ。そつちは助太刀だらうが、こつちは、子分の敵だそこで見物してをつてくれ……新三、木隠れ、それやつちまへ」
「待て！」
さらに、きびしく兩人を

「誰だ」
「おれは、大志賀だ」
「なに？ 大志賀、おう、さういへば、旗本上りの浪人、燕尾服を着込んでるの、わからなかつた。が、大志賀、助太刀屋なせめてめえはウエルズをかばふんだ」
睨めつけた。
ふたりの子分を睨めつけておいて、大志賀はさらに底力のある聲でいつた
「どうしても、ウエルズを渡さぬか」
「あくまでも……」
天ぢくも片意地だ。
「しかし、いまへたれには

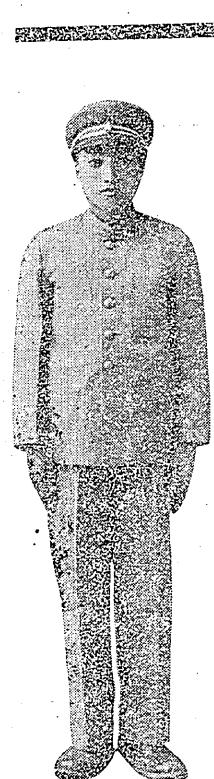
ほかにもう一人、かたきが居る」
「大島小僧のあれか」
「さうよ、ウエルズ、おれたちにまかして、おもへたらパークスを殺つてくれ……」
「……」
「同じ子分の仇討ちだ。ふたり一緒にやつつける事もおまへたちには出来まい。西洋人崇拜の御治世だ。ウエルズをやつつけると、其筋がパークスの警護を殿にするだろ、ついでにパークスといふわけにいかぬ」
「なるほど、同じ子分の敵だ。ウエルズもパークスも同じことだのう」
「いや、むしろ、パークスの方が獲物としては大きい

◎最も理想的な相互扶助機関◎

□共存共榮自一更生の大策□
中小商工業者の小大福音
石城中小商工互融會生る
融資御希望の方へは
十銭の日掛をなし三十日以上掛金をすれば九十圓の御用立を致します
金僅か十銭の日積で満額拂戻の時には五分以上の割戻分配を致します
一、社會公共事業及慈善事業への奉仕
二、懇談會併精神修養講話會
三、會員の吉凶慶弔
四、人事百般の相談
五、法律無料相談
六、診療救恤の補償
七、納税の代納事務取扱
八、勤儉蓄積の奨励
九、小資本の融通
一〇、會員の特典
一、會報發行
皆さん御利用を願ひます
相互扶助機關
石城中小商工互融會
福島一町接樋小路一番地

ど、天竺よろこべ」
「なんの……しかし、助太刀屋てめえさういふが、いまずぐにパークスを捕へるによいのか」
「細工は、りうく、いまのさつき、パークスは、徒足で、をなごとふたり、ホテル館へ戻つた、まだホテル館へつくまい追つかける、と、充分間に合ふかしれぬ……」

冬の通學服賣出



中學生用 六号 四四〇〇
國防色 七号 四四二〇
黒小倉服 A六号 三三〇〇ヨリ、
特A六号 三三〇〇ヨリ、
別注文 國防色 百五〇均、
特A黒小倉 六四二〇均

三平電 店服洋やかふ

味覺の秋を楽しみ得る

香氣の高い 松茸
料理を始めました
出前 迅速
錦水
電四五四

開院

五十嵐 婦産科醫院
醫學博士 五十嵐雄二
平町新川町一二
電話三七〇番
(入院應需)